

パンジー パノラ®・シリーズ

真冬も多花性が維持されるアウトドア・パフォーマンスの高いパンジー

■ パノラ®は中小輪咲のパンジー。秋から冬を越して、春までの長い間花壇で咲き続ける優れた性質のシリーズです。パノラ®は、ふつう大輪パンジーよりも早生咲で多花性の特徴をもっています。パノラ®の株は分枝がよく、花壇定植後は少しくらい温度が高くても草姿がくずれず、15-20cmの丈が維持されます

本品種の学名: *Viola x wittrockiana*
種子粒数: 700-1,100 粒/グラム

プラグ生産ステージ

プラグトレイのサイズ

406 穴、あるいはこれに近いサイズのトレイ適当。発芽の間は約 5 日

培地

水はけがよく、新しく衛生的な培地を用いる。土壌 pH は 5.4-5.8 が適正で、初期養分量の高いプラグミックスなどを用いず、育苗の段階で苗が伸びないようにリン酸分が低く抑えられたパンジー苗に適した培地を用いる

播種

粗めのバーミキュライト等で、深すぎず浅すぎない厚みで覆土する。最良の発芽環境を作るため、しっかり覆土して種子の周りから水分が蒸発しないようにする。ベンチでも 3、4 日で発芽するが、発芽チャンバーを用いた方が揃いはよく、また確実に高い歩留が期待できる

最適な発芽パフォーマンスを実現するため、培地の水分をなるべく高めに維持する。これは表面がぬれて光るくらいを目安にして、トレイの底から流出しない程度、つまり指先で少し表面を触れて十分に浸透している状態が確認できれば適量。苗の徒長を防ぐため、育苗温度が 21°C を超えないよう注意する

ステージ 1:	3 - 4 日
ステージ 2:	10 日
ステージ 3:	14 日
ステージ 4:	7 日

温度

発芽温度:	20°C
ステージ 2:	昼間 18-21°C 夜間 15°C
ステージ 3:	昼間 18°C 夜間 15°C
ステージ 4:	昼間 15°C 夜間 13°C

かん水

ステージ 3 に入ったら、苗が根付いたことを確認して培地の水分を減らす。ステージ 4 では、いわゆるウェットとドライを上手く調整する(適宜、水分を追加し苗の葉色を健康に保ち、乾かすことで苗を軟化させないようにする)

光条件(照度)

発芽期においては、電照等による補光は不要。最高 30,000(3,000 f.c.)ルクスを上限にして光条件を設定すると、質の高い苗に仕上がる

湿度

相対湿度を 95-97% で維持する

肥料

施肥はステージ 3 から開始します。週 2 回、14-0-14(あるいは 20-10-20 のパターンの肥料、ただしリンはゼロか極小とする)を 50ppm(N)の濃度で pH バランスを保ちながら与え、さらにカルシウムを適宜投与します。1 週経過後に 100ppm(N)にまで上げて、この肥料濃度をポット上げ前まで続ける

EC 値*と土壌 pH は、ステージ 2 から 4 まで 0.5-0.75 mmhos/cm また、5.4-5.8 の範囲を維持する。もしステージ 4 において pH の値が 6 を超えるような場合は、水 1 リットルに硫化鉄 1.2 グラムを溶かした水溶液で pH レベルを下げ、葉焼けしないように、葉の部分をよく水で洗い流す。pH が 6 を超えると、他にもホウ素欠乏を起こしたり、細菌感染による根腐れ病等を誘発したりする可能性があるため、十分な注意が必要

矮化処理剤(PGR)

プラグの段階では、A-レストの 10ppm による散布の効果が高い。最初の本葉が完全に展開した時点で(だいたい 3 週齢くらい)、矮化剤を与える。通常はこの 1 回で十分。また生育が早いようであれば、3 週目よりも数日早く与えることも可能

Note: ポット上げ適期を逸さないように注意する。トレイに置きすぎて根詰まりすると、プラグの段階で花芽が上がってくる。このような株は当然、ポット上げ後も株を張らず、商品性は期待できなくなる

ポット上げから出荷まで

コンテナサイズ

カットバック、10cm 前後のポット。

用 土

パンジーは、培地に含まれる元肥の内容が生育に大きく影響する。養分量が低すぎると株が十分に肥りきらないうちに花が上がってしまい、商品性が低くなる。必要な微量元素の含有されている、中庸の養分量を備えた培地を用いることで、葉と株のバランスが整った草姿に仕上がる

温 度

施設栽培では、昼間温度を 15℃、夜間温度を 10-13℃に設定

光 条 件

電照等による補光は不要

肥 料

施設栽培においては、移植後 1 週してから週 1 度 150ppm の濃度で肥料を与える。施設外管理では、施肥を与える頻度を若干上げる。移植後は一貫して、EC 値*を 1.5mmhos/cm、また pH を 5.6-5.8 に維持する。肥料は、pH の値を保ちやすい 20-10-20 のようにやや酸性に傾くものか、あるいは 15-5-15 のようなベーシックなパターンのどちらでも可能。もし培地の pH が 6.0 を超えるような場合は、前述の 0.12%の硫化鉄水溶液を与え、葉焼けしないように水で葉の部分をよく洗い流す

矮化処理剤(PGR)

パンジーの矮化剤使用に関しては、夜間と昼間の温度条件や生産場所、また作型によって多少かわってくる。昼間と夜間の温度が最適範囲で、つまり温度がさほど高くない環境(昼:16-20℃、夜:11-15℃)であれば、移植後 1 週で 10-20ppm の A-レストを葉面に一度、その後 7-10 日おいて同濃度でさらに 1, 2 回行えば十分な効果が期待できる。(昼間/夜間ともに)気温の高い条件化では B-ナイン、5,000ppm とサイコセル 1,000ppm、あるいは B-ナイン、5,000ppm と A-レスト、10ppm のどちらかのタンクミックスの使用で効果がある。どちらも葉面散布で、やはり移植後 1 週から開始して、その後 7-10 日おいて同濃度でさらに 1, 2 回行うことで効果がある。実際、パンジーでは温度管理が最も重要な生長制御の要因となる。たとえば春出しのパンジーを温度の低い条件で生産するのであれば、矮化剤は不要か、あるいは最小限の使用で生産が可能

品質のよいパンジーを生産するには、(強い風雨の懸念さえなければ)ポット上げ後 1 週たったら露地や無蓋ハウスで作ることもひとつの方法である。このように、戸外で生産する場合の理想的な温度は、最初の 2, 3 週は昼間温度 15-21℃、夜間温度 11-15℃の範囲。パンジーは低温に強い植物なので、夜の気温が 5℃まで下がっても雨や雪の心配さえなければとくに大きな問題はない

栽培のスケジュール

播種からポット上げ(406 穴トレイ使用): 5 週

ポット上げから出荷(カットバック):

4-9 週(季節によって異なる)

播種から出荷(トータル期間): 9-14 週

予想される一般的な障害について

害虫: プラグ生産ステージでは、ファンガスナッツ、ショーフライなどをしっかり殺虫駆除する必要がある。また、移植後はアブラムシやスリップス、ハダニ、ホワイティフライが害虫として問題になる

病気: 適正な管理条件下では特定の病例は報告されていません立ち枯れや黒斑病、葉上の種々の斑点病、ボトリティスなどが出やすい病気

*: EC 値(電気伝導度)の数値は、北アメリカのピート主体の培地が算出要素になっているので、日本国内では適合し得ない場合もあります。

PanAmerican Seed

PanAmerican Seed Co.
622 Town Road, West Chicago, Illinois, USA 60185-2698
630 231-1400 Fax: 630 231-3609 www.panamseed.com

®および®は、Ball Horticultural Company のアメリカ合衆国、またその他国における登録商標です。

©2003 Ball Horticultural Company Japanese translation version
Originally printed in USA PAS003019